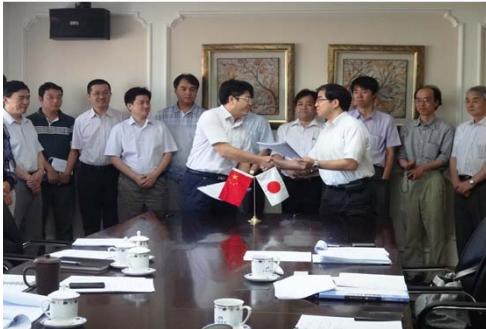


JICA中国事務所ニュース

2013年8月号

- ★ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ★ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ★ サーチナJICAページ <http://news.searchina.ne.jp/topic/032.html>
- ★ JICA中国事務所ミニブログ <http://weibo.com/u/3248071500> **NEW!**



目次

■ トピックス

- ◎ 日中環境協力と「循環型経済推進プロジェクト」 ……3

■ ニュース

- ◎ 「職業衛生能力強化プロジェクト」
塵肺症例に関する検討会 ……3
- ◎ フフホト市における環境教育セミナー ……3
- ◎ 国有林場管理体制と森林資源管理セミナー ……4
- ◎ 黄土高原植林事業管理交流会 ……4
- ◎ 「持続的農業技術研究開発計画プロジェクト」の田植イベント ……5
- ◎ 「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」
プロジェクトオフィスを大使が訪問 ……5
- ◎ 認知症セミナーに参加 ……5

■ CHINA COOL

広州白雲空港の液晶ディスプレイ搭載カート ……6

■ 帰任者紹介

……6

独立行政法人国際協力機構 中華人民共和国事務所

北京市朝陽区東三環北路5号 北京発展大厦400号室

郵便番号: 100004

電話: +86-10-6590-9250、FAX: +86-10-6590-9260

ニュースレターに関するお問い合わせは、こちらまで

E-mail : jicacn-pr@jica.go.jp

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

日中環境協力と「循環型経済推進プロジェクト」



日中友好環境保全センター

■ 日中友好環境保全センター

<http://www.edcmep.org.cn/japan/index.htm>

◆ 中国の環境課題に取り組む「日中友好環境保全センター」

PM2.5をはじめとする中国の大気汚染や水質汚濁等の環境問題は、中国の人々の最大の関心事であり、日本でもその動向が注視されています。2012年11月の第18回党大会では「生態文明の建設」が目標の一つとして明記されたほか、中国政府も新たな政策策定等を通じて、環境課題解決に向けた取り組みを強化しています。

日中友好環境保全センター（以下「環保センター」）は、中国の環境行政で中核的役割を担う、環境保護部直属の機関です。同センターは、日中両国政府が、日中平和友好条約締結10周年を記念して建設に合意し、1996年に落成しました。日本は、準備期間も含めた20年以上にわたり、黄砂や酸性雨、廃棄物の管理や再利用、環境教育等の幅広い領域に対して、環境政策や戦略の立案や提言等に関する技術協力を展開してきました。

◆ 循環型経済プロジェクト

JICAと環保センターは、2008年～2013年の予定で「循環型経済推進プロジェクト」を実施しています。経済成長に従って資源消費が増加している状況を踏まえ、経済成長と環境の両立、とりわけ資源の減量化や、再利用・資源化を推し進めるために、中国政府は2008年に「循環経済促進法」を制定しました。この法律の着実な実施促進を目的に、本プロジェクトが実施されることとなりました。

本プロジェクトでは、「資源投入」、「生産から廃棄」、「処分」に係る一連のサイクルに沿って、循環型経済推進のための課題を、①環境に配慮した事業活動の推進、②国民の環境意識の向上、③静脈産業類生態工業園（エコタウン）整備の推進、④廃棄物の適正管理の推進の4つに分類した上で、各課題を解決するために必要な諸施策の実行能力強化に向けた協力を展開してきました。

本プロジェクトを通じて、「企業環境情報公開ガイドライン」、「企業環境報告書ガイドライン」、「エコタウン推進ガイドライン」、「ダイオキシン類簡易測定法に関する技術マニュアル」等、今の中国の環境行政に不可欠なガイドライン等が作成されました。

◆ 企業監督員制度

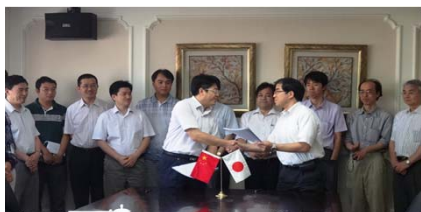
本プロジェクトの特筆すべき取り組み一つとして「企業環境監督員制度」が挙げられます。企業環境監督員制度事業は、日本の「公害防止管理者制度」を中国に導入する試みであり、各工場からの廃棄物量をモニタリングすることを通じて、大気汚染や水質汚染削減を図るものです。本プロジェクトでは、この他にも、産業廃棄物の再利用を複数の工場間で行う「エコタウン制度」に関する国家計画の策定等、中国における環境政策の策定に貢献してきました。

本プロジェクトが2013年10月に終了予定であることを踏まえ、先般、日中共同でプロジェクトの進捗・達成度を確認しました（終了時評価）。評価メンバーは、環境問題には国境がないことを改めて確認した上で、環保センターには、引き続き日中両国政府、民間企業、研究者、NGO等と積極的に連携しながら、日中環境協力のプラットフォームとしての機能を発展していくことを期待すると話していました。JICAとしても、このような取り組みを後押しして行きたいと考えています。

（林憲二）



「循環経済プロジェクト」を通じて策定したガイドラインやマニュアル



■ 循環型経済推進プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/010/index.html>

<http://www.jica.go.jp/oda/project/0800288/>

「職業衛生能力強化プロジェクト」

塵肺症例に関する検討会



■職業衛生能力強化プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/011/index.html>

■プロジェクトニュース

<http://www.jica.go.jp/project/china/011/news/index.html>

JICAは、7月30日～8月1日、南京市において「塵肺症例」に関する検討会を開催しました。

中国では、急速な経済成長の一方で、職場で長期間吸引した粉塵や微粒子が肺の細胞に蓄積して生じる肺疾患（塵肺）等の職業病が社会問題となっています。JICAは中国国家安全生産監督管理総局等とともに、職業病にかかる監督管理、技術サービス、情報収集・分析水準の向上、企業及び労働者の労働衛生意識と管理能力の改善を図ることを目的に「職業衛生能力強化プロジェクト」を実施しています。

今回の検討会は、同プロジェクト活動の一環として開催され、中国疾病予防コントロールセンター（CDC）や、蘇州、江蘇省、河南省等の関連部門の約60名と、日本側から同プロジェクトの専門家と、日本労災病院グループの2名の専門家が出席しました。日中双方による研究発表のほか、6つの具体的症例に関する討論を行いました。本プロジェクトでは、10月に「塵肺診断」に関する訪日研修を予定しており、これによって今回の症例検討会で得られた成果が更に拡大することを期待しています。

（林哲浩）

フフホト市における環境教育セミナー



■循環型経済推進プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/010/index.html>

JICAは、7月23～26日、内蒙古自治区呼和浩特市において、「循環型経済推進プロジェクト」の活動の一環で、市民の環境意識向上を目的とした環境教育セミナーを開催しました。中国の全国に設置されている環境教育拠点の関係者を対象に、日本と台湾から招いた専門家が、教育プログラムの設計や運営管理の経験を紹介したほか、中国側からも野外環境教育プログラム等の各種活動事例が紹介されました。また呼和浩特市環境教育施設を訪問し活動を視察しました。

今回のセミナーで、「京エコロジーセンター」の岩松洋専門家の講義では、参加型の環境教育活動事例として、風力で簡単に充電できるモーターを利用したミニカーを使って走行距離を競うゲームが紹介されました。セミナー参加者は、ゲーム形式の活動を実際に体験し、労力の割にはミニカーの走行距離が短いことに気付くなど、普段何気なく使う電気の貴重さを改めて実感するとともに、このような方法を通じて、楽しみながら節電意識の向上を図ることの有効性を認識しました。参加型の環境教育活動を企画・実施する際のコツやノウハウ等についても意見交換が行われ、有意義なセミナーとなりました。

（宿因）

国有林場管理体制と森林資源管理セミナー



■中国西部地区林业人才培养プロジェクト

http://www.jica.go.jp/project/china/002/materials/pdf/pamph_02.pdf

JICAは、7月30日～31日、内蒙古自治区赤峰市において、「国有林場管理体制と森林資源管理セミナー」を開催し、国家林業局幹部のほか、中国西部地区の省・自治区の林業関係者、日本人専門家等、約90名がこれに出席しました。

中国政府は、国を挙げて国有林場改革を実施しており、経済性追求のために森林破壊が進むような事態を防ぐために、森林保護と経済発展の両立を模索しながら、国有林場の経営強化（経営採算の改善）や森林資源保護の強化を図っています。このような中国の林業政策に応え、JICAは、中国国家林業局とともに、「中国西部地区林業人材育成プロジェクト」を実施しています。本プロジェクトでは、国有林場改革の推進を目的に、中国西部地区（中国の国有林場の70%が集中する）を対象とした人材研修体制の強化に向けた活動を展開しています。

今回のセミナーは、同プロジェクトの活動の一環で、国有林場改革政策の最新動向の把握や国有林場改革の管理体制について検討することを目的に開催されました。セミナーでは、日本林野庁国有林野部の間島重道課長補佐が、日本の国有林場改革について紹介しました。日本の国有林場は、高度経済成長期の人件費高騰や人々の環境意識の向上に伴って、木材生産が思うように進まず、一時は経営が著しく悪化しましたが、その後の組織合理化や民間委託の推進を通じて、債務返済が開始されるに至りました。現在、中国の国有林場の多くは国からの補助金を前提として経営されていますが、今後は自立化に向けた経営推進が必要になってくると思われ、例えば木材やきのこ、漢方薬等の生産強化やエコツーリズムの推進に関する提言があり、各地の林業担当者の関心を集めていました。

(林憲二)

黄土高原植林事業管理交流会



■黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト

<http://gwweb.jica.go.jp/km/ProjectView.nsf/ce8687ac31e17b1549256bf300087d05/bed3b9f68a5e0c544925778c0079cfc6?OpenDocument>

JICAは、7月17日、山西省太原市において、「黄土高原林業新技術推進普及プロジェクト」の一環として「黄土高原植林事業管理交流会」を実施し、山西省・河南省・陝西省・内モンゴル自治区・甘肅省・寧夏省・青海省の黄土高原7省の林業庁等、植林事業関係者や、「中国西部地区林業人材育成プロジェクト」の日本人専門家が出席しました。

黄土高原地域は、乾燥した気候、表土流失、干ばつや砂漠化等に起因する自然災害の激化や貧困問題等の課題を抱えています。本プロジェクトでは、林業技術や管理方法を、このような地域に適するものに整理・改善し、更に広く普及していくことを目指しています。

今回の交流会では、各省の担当者が、プロジェクト成果や、林業の第十二次五ヶ年計画を巡る課題について報告したほか、日本人専門家からは「中国西部地区林業人材育成プロジェクト」で開発した人材育成のための研修フローや手法を紹介しました。

森林を保護しながら周辺住民の生活向上を実現する「林下経済」のアプローチ等、共通した課題を抱える黄土高原各省の林業関係者が一堂に会して意見交換をすることを通じて、互いの先進的な取り組みを学ぶことが出来ました。このような交流が深化することで、広く黄土高原の生態環境の回復に役立つことを期待しています。今回の交流会に引き続き、今年度は、黄土高原各省における研修も実施して行く予定です。

(李飛雪)

「持続的農業技術研究開発計画プロジェクト」の田植イベント



■ 持続的農業技術研究開発計画（第2期：農業環境保全・修復）

<http://www.jica.go.jp/china/office/activities/project/01.html>

■ プロジェクトホームページ

[http://data.ieda.org.cn/templates/jiaoyu_001_1/second\\$6_6.html](http://data.ieda.org.cn/templates/jiaoyu_001_1/second$6_6.html)

■ 参考情報

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201306/02.html#a03>

肥料や農薬の大量投入や、過度な土壌利用は、中国における食の安全や農民の生活にとって脅威となっています。JICAと中国農業科学院は、環境保全型の農業技術を開発・普及することを目的に、「環境に優しい農業技術開発及び普及プロジェクト」を実施しています。

7月27日、湖南省岳陽市において、同プロジェクトの活動の一環として「田植イベント」を開催しました。湖南省岳陽市は、米の産地として知られ、観光名所である岳陽楼のほか、洞庭湖等の美しい自然を擁しています。本プロジェクトと、中国農業科学院、岳陽農業科学所、湖南省平和堂実業有限公司が協力して開催した今回のイベントには、湖南省科学技術庁や、日系百貨店の平和堂社員や消費者等、約60名が参加しました。

田植え体験の前には、環境保全型農業に対する理解を深め、また食の大切さを知るために、①環境保全、②農家の仕事、③側条施肥田植技術をテーマとした勉強会を行いました。側条施肥とは、水稻に施肥する際に水田全体ではなく稲の根元のみ施肥を行うことで、収量を減らすことなく、肥料使用量の大幅な削減を可能とする環境技術であり、例えば岳陽の場合、従前の手法と比べて施肥量を約30割削減することが可能となりました。

その後、参加者たちは、岳陽農業科学所試験圃場において、農家とともに田植えをし、その楽しさや苦さを体験しました。実家が農家で昔よく手伝っていたという参加者がいる一方で、特に多くの子ども達にとっては初めて体験する農作業となり、父兄からは、子ども達が食の大切さを学ぶ有意義な機会となったとの感想がありました。湖南省科学技術庁や岳陽農業科学所からは、農業を通じて環境や食に対する啓発活動を行うことの必要性を実感し、今後も継続して行くよう努めたいとのコメントが、平和堂からはJICAプロジェクトとの官民連携で開催したことの意義等について発言がありました。（王莉）

「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」

プロジェクトオフィスを大使が訪問

7月17日、JICA「人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト」のプロジェクトオフィスを木寺昌人在中国日本国特命全権大使が訪問し、プロジェクト関係者による活動報告と、意見交換が行われました。JICAは、人とトキが安心して共生できる環境づくりを目指して、2010年から5年間の予定で同プロジェクトを実施しています。陝西省の漢中トキ国家級自然保護区、寧陝県、河南省の董寨国家級自然保護区の3ヶ所を対象に、トキの保護や野生復帰のための研修、有機農業の支援、子どもや地域住民を対象とした環境教育等、農民生活とトキ保護の両立に向けた取り組みを進めています。（林憲二）

認知症セミナーに参加

JICAは、年金、介護、リハビリ、保健等の切り口から多くの日中協力事業を実施した経験を活かし、日中共通の課題である高齢化対策に関する、共同研究・交流・協力を促進するためのプラットフォーム構築に向け、日中双方の関係者との議論を深めています。7月26日、介護サービス等の事業を展開する株式会社リエイの中国現地法人が主催する認知症セミナーに参加しました。セミナーには、中国において看護や介護に従事する職員や施設管理者が多数参加しており、また定員上回る申込があったことから、中国での関心の高さがうかがえました。主に認知症介護技術に関して、ケアマネージャー及び認知症ケア上級専門士の資格を持つ講師が、理論や具体的な事例を紹介しました。中国老年保健協会認知症委員会（ADC）からの出席者は、中国では認知症に対する適切なケアが必ずしも行われていない現状がある等を紹介するとともに、認知症分野での日中協力の可能性について議論しました。（鮑迪娜）



■ 人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/china/004/index.html>

■ 参考情報

<http://www.jica.go.jp/china/office/others/newsletter/201307/02.html#a01>

CHINA COOL

広州白雲空港の液晶ディスプレイ搭載カート

中国では飛行機を利用する旅行者数が増加し続けており、例えば、2013年旧正月の帰省ラッシュでは、民間航空機による運送量が昨年比5.2%増。広州白雲空港を利用する旅行者も発送量が昨年比5.4%増、発着数は同8%増であった。空港利用者数が増えるにしたがって、「空港サービス」がホットな話題となっている。

初めて利用する空港に訪れた場面を想像しよう。搭乗手続きのためにはどこに行ったらいい？ 荷物はどこで預ければいい？ 安全検査はどこ？ 搭乗口はどこ？ お腹が空いているけれど、どこでどんなものが食べられるだろう？ 携帯の充電をしておかなくちゃ…。空港を利用したことのある人なら、このような問題に直面したことがあるだろう。誰かが私のために随時情報提供してくれたらどんなに便利だろう。。

広州白雲空港ではそれが可能だ。広州白雲空港に設置された手荷物用カートには、GPSと無線LANが搭載された液晶ディスプレイが搭載されている。まず最初にあなたの搭乗券をスキャンする。ディスプレイ上に、あなたの所在地が示され、搭乗するフライト情報に基づいて、あなたが通過すべき安全検査や搭乗口までの順路図が提示される。ニーズに応じて、詳細かつ全面的な買い物・飲食情報も提供してくれる。もし搭乗予定機の出発時間が変更となったら、ディスプレイ上には変更情報が自動表示される。搭乗口が変わるのであれば、新たな順路図も提示してくれる。もし待合室で長い時間をつぶす必要があるのであれば、インターネットの利用や映画鑑賞が可能だ。



何て親切で思いやりのあるサービスだろう。広州白雲空港の待合室には1000台の液晶ディスプレイカートが設置されており、搭乗客に利用されている。私も実際に利用したが、その便利さは非常に印象的だった。広州白雲空港を利用する機会があれば、是非ご自身で体験していただきたい。

(李瑾)

帰任者紹介

長期専門家

及川 拓治 「ダム運用管理能力向上プロジェクト」

2011年8月～2013年8月